

# ふくおかのふくし

148号  
Nov.2014

Welfare of Fukuoka



ねんりんピックとちぎ大会で入場行進をする福岡県選手団

## 今号の内容

- 『『助けて』と言える社会を目指して  
～生活困窮者支援の現場から～』
- ねんりんピック栃木大会で本県選手団150人が躍躍！
- 12月1日から歳末たすけあい運動がはじまります！
- 社協とJCが災害時相互協力協定締結
- 社会福祉法人への期待と担うべき社会福祉事業の姿
- ふくふくニュース

ふくおかの元気高齢者150人が全国大会で大健闘！  
(3頁掲載)

じぶんの町を良くするしくみ  
赤い羽根共同募金  
この広報誌は、一部共同募金の  
配分金を受けて発行しています。

# 『助けて』と言えぬ社会を目指して

## 生活困窮者支援の現場から

平成26年 福岡県社会福祉大会 記念講演から

去る10月21日(火)、クローバープラザ(春日市)で、「平成26年福岡県社会福祉大会」を開催しました。本大会は、社会保障・社会福祉制度の現状と課題を踏まえ、誰もが安心して暮らすことのできる元気な地域づくりに取り組んでいく契機として開催し、県内の社会福祉関係者 1100名余の参加をいただきました。

総会・式典に先立ち、認定NPO法人 抱樸(ほうぼく)理事長 奥田 知志氏に「助けて」と言える社会を目指して「生活困窮者支援の現場から」と題して記念講演をいただきました。

奥田氏は、滋賀県のご出身で、学生時代にボランティア活動に参加されたことをきっかけに、以来、ホームレス支援に関わり続けています。1990年に日本バプテスマ連盟東八幡キリスト教会の牧師に就任され、北九州ホームレス支援機構を設立。ホームレス支援全国ネットワークの代表も務められています。



認定NPO法人 抱樸  
理事長 奥田 知志氏

現在、北九州を中心に、4カ所の自立支援施設を運営しておられ、活動開始後25年で2300人以上のホームレスの方々を自立へと導かれ、自立継続率は9割以上の実績となっています。

講演では、「無縁社会」と呼ばれる深刻な現実の中にあっても、真の「絆」を求め、その必要性を訴え続けてこられたご自身の体験を通じ、社会福祉を取り巻く現状や課題、そして社会福祉関係者がどのように対応すべきかということについて、お話しいただきました。

### 生活困窮者支援の基本はありのままを受け止めること

これまで長年、北九州ホームレス支援機構という団体の名前で活動していましたが、今年7月に活動開始25年を期して、名前を「抱樸」に変えました。「樸」というのは、原木という意味で、抱樸は、山から切り出された原木をそのまま抱きとめるという意味です。

今の社会は、例えば木で例えると、製材所に運ば

れて、綺麗に整えば、引き受けるというやり方、つまり、準備が整った人から引き受けるという方法ですが、これでは生活困窮者の支援というのは始まりません。そのまま一旦引き受ける姿勢が大切です。日本の社会保障は、申請主義ですが、困窮者が自ら手を上げることはほとんどありません。困窮状態になることは、自分で助けてと言えない状態でもあります。

サイレントプアというNHKのドラマがありましたが、まさにそのとおりです。これは、実は経済的に困窮しているだけでなく、社会的に孤立しているからです。自分がどこまで疲れているか、困窮しているか、自分が一番分かっているか、困窮しているか、案外そうではなく、往々にして周りの人から気付けられません。しかし、他者に相談しない、あるいはできない人たちは、それを知りません。

そういう方を原木のまま引き受けることによつて、そこで出会いが起こり、原木が少しずつ机になったり、椅子になったり、杖になったり、もしくは楽器になったりして、人の役に立っていくのです。

また、もう一つの意味があります。原木のまま抱きとめると、ささくれている、刺々しかったりします。困窮状態にある人は余裕がないまま相談に来るので、少しぶつきらぼうだったり、大丈夫かなという人も中にはいます。

しかし、それを一旦受け止めて、抱くときに多少傷ついても、抱きとめてくれる人がいるかいないかで変わってきます。

絆という言葉を書くと「きず」という字を含んでいます。人と人が絆を結ぶと「傷」というものを少し覚悟しなければならぬと思います。私の事を多少傷ついても引き受けてくれる人、それが本当の絆だということです。抱樸には、そのような意味も込めています。



我が国の社会保障分野における制度改革や見直しが進められている中、県内社会福祉関係者の総意をもって、「大会宣言」「実践申し合わせ事項」を採択しました。

## 大会宣言

家族間や住民同士の関係の希薄化等による社会的孤立や生活困窮等、さまざまな社会問題が深刻化している現在、国では社会保障と税の一体改革をはじめ、社会・経済全般にわたる改革が進められていますが、国民の生活を高めるためには、地域で支え合う新たな仕組みづくりが強く求められています。

また、相次ぐ大規模災害の影響等もあり、近年、地域における「つながり」、「絆」の大切さが見直され、その再構築に向けた官民一体の取り組みが求められています。

このようなどきこそ、社会福祉関係者は、これまでの経験と成果を活かし、それぞれの立場で専門性を発揮することで、その存在意義を示すとともに、地域づくりの中核として、その役割を果たすことが重要です。

さらに、本年、障害者権利条約が批准されたことを契機として、全ての人々の権利擁護の取り組みを一層充実させねばなりません。

本大会において、私たち社会福祉関係者は、連携強化に努め、国及び県・市町村と協働して、すべての人が安心して暮らすことができる福岡県づくりに一致団結して取り組むことを誓い、ここに宣言します。

## 実践申し合わせ事項

- 1 官民一体となった地域福祉の推進**  
住み慣れた地域で誰もが安心してその人らしく暮らせるよう、住民同士の「つながり」、「絆」の再構築に向け、官民一体となった地域福祉の推進に努めよう。
- 2 社会福祉諸制度改革への適切な対応強化**  
社会保障・社会福祉制度の転換期にあたり、国では、社会福祉法人の在り方の見直しや医療・介護の一体改革、介護保険制度の見直し、障害福祉施策の拡充、平成27年度の本格施行に向けた子ども・子育て支援新制度や生活困窮者自立支援法等の準備が進められている。  
これらに適切に対応するため、権利擁護の意識に基づく関係者の連携強化等、その基盤整備に努めよう。
- 3 社会福祉法人の地域貢献の推進**  
社会福祉法人は、他の公益法人よりも高い責務を負う法人として創設された経緯に鑑み、経営の透明性の確保や地域貢献活動の積極的な推進に努めよう。
- 4 福祉サービスの質の向上と利用者支援の強化**  
福祉サービスの質の向上を図るため、福祉人材の安定的確保、養成、定着促進に向けた魅力ある職場づくりの取り組みに努めるとともに、適切なサービス利用を支援するため、日常生活自立支援事業や福祉サービス苦情解決事業、福祉サービス第三者評価事業等の推進に努めよう。
- 5 大規模災害への対応強化**  
近年多発している大規模自然災害に備え、日頃から関係機関・団体が連携・協働し、地域福祉活動を基盤とした災害対策の充実・強化に努めよう。  
併せて、施設・事業所利用者が安心・安全に生活を営めるよう、社会福祉法人・施設・事業所における防災力の向上を図るとともに、被災時の地域の避難拠点機能や施設間相互の連携等の充実に努めよう。
- 6 共同募金運動の取り組み強化**  
民間の地域福祉活動を財政面から支援する共同募金運動の推進・拡大に努めよう。

「大会宣言」「実践申し合わせ事項」に加え、「特別アピール」が提案・採択され、国民の期待に応える社会保障制度・社会福祉制度の実現に向けて、取り組みを進めることが確認されました。  
「特別アピール」は厚生労働省、福岡県、県内市町村に本大会会長名で要望いたしました。

## 特別アピール

現在、我が国では、生活困窮、子どもの貧困、虐待、孤立死等様々な福祉課題・生活課題が噴出している。  
一方、福祉人材の確保・定着は喫緊の課題となっており、その解決には、職場環境の整備や処遇改善、専門性を高める研修事業の充実等が不可欠であり、福祉の仕事の意義や魅力を広報し、新たな人材発掘に努める必要がある。  
また、国では、社会福祉法人への課税見直しが検討されているが、急増する福祉ニーズに対応し、地域のセーフティネットとして社会福祉法人が持てる力を最大限に発揮していくためには、現行制度が堅持され、さらにこれまで以上の財源が確保されなければならない。

国及び地方自治体は、地方分権の流れの中で、規制改革、生活困窮者対策の推進、介護保険制度の見直し、子どもを産み育てやすい環境づくり、障害福祉サービスの確保・地域生活支援の推進等にあたり、社会福祉関係者の意見を十分に取り入れるとともに、国と地方における権限・財源・責任の明確化を基本とした仕組みづくりを進めていただくよう、県内社会福祉関係者の総意をもって強く要望する。

多年にわたって社会福祉の推進に貢献された方々に対して表彰を行いました。  
受賞された皆様、おめでとうございます！

表彰区分	表彰	感謝
県知事	90名	307名
県社協会長	350名	2名・21団体
県共同募金会会長	会長表彰	19名・1団体
	優秀地区	29支会
		32名・37団体



# ねんりんピック栃木大会で 本県選手団150人が躍動!!

日頃からスポーツや文化活動を通じて生きがいづくり、健康づくりを実践している全国の元気な高齢者が10月4日から7日までの4日間、栃木県に集い、第27回全国健康福祉祭とちぎ大会が開催されました。



第27回全国健康福祉祭とちぎ大会

ねんりんピック栃木 2014

咲かせよう! 長寿の花を 栃木路で

選手・本部役職員合わせて20種目150名の福岡県選手団は、10月3日、福岡県庁での結団式で、小川 洋 福岡県知事や小川 弘毅 福岡県社会福祉協議会長から激励の言葉を受け、士気も高く福岡の地を出発しました。



10月4日に栃木県総合運動公園（宇都宮市）で行われた総合開会式では、全国67選手団約10,000名が笑顔で旗や帽子を振りながら元気はつらつと入場行進を行いました。

10月5日から栃木県内の20市町において開催された各交流大会では、接近した台風18号の影響のため、予定されていた種目・試合が一部中止となりましたが、選手のみなさんが雨風にも負けずに元気で力強くプレーする姿が印象的でした。

福岡県選手団は、第1位グループで見事ブロック優勝に輝いたソフトバレーボールかすがチームをはじめ、各種目の選手のみなさんが日頃の練習の成果を十分に発揮し、元気な福岡県を全国にアピールしました。

大会期間中に「台風が通過する」という悪天候での大会となりましたが、福岡県選手団は、大会テーマとして掲げられた「長寿の花」を見事に咲かせておくことができました。



第1位グループブロック優勝を果たしたソフトバレーボールかすがチーム

## ★福岡県選手団の主な成績★

種目	チーム・選手名	賞	成績
テニス	とびうめ	優秀賞	第1位グループトーナメント進出
ゲートボール	春日若葉	優秀賞	9位
マラソン	柳川 喜代子	優秀賞	5位（5km女子70歳以上）
ソフトバレーボール	かすが	優勝	第1位グループブロック優勝
ウォークラリー	黒田のごりょんさん	優秀賞	とちまるコース9位
将棋	福岡県	優秀賞	団体戦ベスト16

12月1日から31日まで

歳末たすけあい運動がはじまります！



歳末たすけあい運動は、共同募金運動の一環として、12月1日から31日までの1か月間、全国一斉に取り組まれます。

新たな年を迎える時期に、支援を必要とする人たちが、地域で安心して暮らすことができるように、地域住民、ボランティア、民生委員・児童委員の皆さん、社会福祉施設、社会福祉協議会等の関係機関・団体が、様々な福祉活動に取り組みされており、歳末たすけあい運動は、この福祉活動を支援しています。

もともと歳末たすけあい運動は、明治39年（1906年）に、大阪毎日新聞が「歳末同情募金」を集めたのが始まりとされており、その後、方面委員（民生委員の前身）が中心となって、全国的に「歳末同情募金」を募り、義援金品の配布を行っていました。

またこの運動は、その精神に基づき、現在は地域のつながりを支えるために活用されています。このような地域での活動支援にご協力いただける場合は、各市区町村にある共同募金会の窓口までお声かけください。

また、NHK歳末たすけあい運動も始まります。毎年12月に、共同募金の一環として、NHKとの共催で行われる運動です。

この募金運動では、NHKがテレビ、ラジオを通じた広報を、中央共同募金会と福岡県共同募金会が寄付金の受け入れや配分など寄付金の取り扱いに関する業務を、それぞれ担っています。

福岡県では、お寄せいただいた寄付金を、在宅介護者を支援する活動や児童福祉施設の中学校・高等学校卒業者を対象とした進学・就学準備金などに活用しています。皆様のご協力をお願いします。

## 歳末たすけあい募金のつかいみち

【年賀状の配布】



保育園児、幼稚園児、小学生による一人暮らし高齢者へ年賀状をお送りします。



【正月用おもちの配布】



地域のボランティア団体等が実施する年末年始の一人暮らしや寝たきり高齢者でお餅を自分で買うことのない方へ見守り訪問を兼ねて、正月用のおもちを配布しています。

【路上生活者支援】



公園、河川敷、駅などで路上生活を余儀なくされている人々の自立を支援し、ボランティアや医師等が協力して年末年始の炊き出しと健康相談・生活相談を行っています。



# 「子ども民生委員」が大活躍！

## 大牟田市での街頭募金活動の取り組み

10月1日から始まった赤い羽根共同募金運動。これまで福岡県内各地で、地域の皆さんや募金ボランティアの方々からたくさんのご協力をいただいています。

去る10月10日（金）、多くの人で賑わう毎月恒例の「十日市」（大牟田市の銀座通り商店街他）では、

子どもたちの大きな声が商店街に響きました。中友小学校5年生の「子ども民生委員」の23人が、中友校区社会福祉協議会の皆さんと街頭募金を実施しました。

中友校区社会福祉協議会では、子ども民生委員も参加しての街頭募金は今年で5回目となります。



街頭で募金ボランティアを行う子ども達

学校の授業の一環としては、今年が初めての実施となりましたが、子どもたちが共同募金運動の街頭募金に参加することは、何より地域と学校が良い関係を築いているからこそできるものです。

子どもたちを地域で育てていくとすると中友校区社会福祉協議会と地域との関わりを大切にしている中友小学校の両者の思いを受け、元気いっぱい街頭募金に参加してくれた子ども民生委員の皆さん、ありがとうございました。

子ども達が共同募金運動に参加することは、「募金活動の必要性」自身が実感できます。そして子どもたちが、身近な福祉活動を理解するとともに自分たちが地域の一員であるという意識や責任感、実行力を身につけてくれることを期待できます。

共同募金は「じぶんの町を良くするしくみ」です。学校、社会福祉協議会や共同募金会、ボランティア団体など地域のつながりづくりに欠かせない皆さんと子どもたち。ぜひ一緒に、共同募金を通じ

て、自分たちの住む地域のことを考えてみてはいかがでしょうか。

### 子ども民生委員とは...

大牟田市立中友小学校の5年生が地区社会福祉協議会から委嘱され、様々な地域での活動に参加します。

#### 【活動紹介】

- ・一人暮らしの高齢者宅への見守り訪問活動
- ・敬老会のお手伝い
- ・共同募金の街頭募金 など



【問い合わせ先】  
福岡県共同募金会  
092-584-3388

# 県内初！ 市社協とJCCが災害時相互協力協定締結

公益社団法人日本青年会議所（以下「JCC」と）社会福祉協議会（以下「社協」）による災害時相互協力協定の締結が拡がっています。この協定は、災害時に災害ボランティアセンター運営の中核を担う社協と様々な業種の会員を有するJCCとが平常時から連携を密にし、発災時に迅速な対応ができるよう協力関係を明確にしたものです。

平成25年10月に県社協と福岡ブロック青年会議所が協定を締結したところですが、このたび市町村社協では福岡県内初となる締結が行われました。

## 筑後市

去る平成26年9月22日に筑後市社協と筑後JCCが行った調印式では、筑後JCC 山下 晃平理事長が「7月から会議を重ね、本日を迎えることが出来ました。これからは、互いに力強い協力関係のもと、災害時のみならず、平常時から顔の見える関係を構築していきたい」と意気込みが

語られました。続いて、筑後市社協 永田 昌巳 会長が「この取り組みは全国的にも非常に珍しい。幅広いネットワークや情報を持つ青年会議所と協定を結ぶことにより、地域住民の防災に関する意識の向上はもとより、筑後市が災害に強い地域となつていくと確信しています」と述べました。



筑後市社協と筑後JCCの調印式

## 宗像市・古賀市・福津市

平成26年9月25日には、宗像市・古賀市・福津市の3市社協が宗像JCCと災害時相互協力協定を締結しました。

調印にあたり、宗像市社協 桑野 俊一郎 常務理事は「近年、全国各地で災害が発生しており、3市の常務理事で災害時の協力の必要性について協議し、社協

間並びにJCCとの協定を締結することとなりました」と述べられました。

また、福岡ブロック青年会議所の弘中 國太郎災害対策委員長は、「昨年の本会議所と県社協との協定に続き、今年は、地元単位で協力関係を築いていく取り組みを進めていくために、顔の見える関係の構築を進め、今後も市町村単位の協定に向け、積極的に取り組んでいきたい」と話されました。

これを機に、日頃から市町村社協と各地区JCCとの連携をさらに強化できるよう本会では積極的に支援していきます。



宗像市・古賀市・福津市の3社協と宗像JCCの調印式

## いざという時のために災害ボランティアセンターの運営管理の想定を！

大規模な災害が発生した場合は、市町村の社会福祉協議会が中心となって「災害ボランティアセンター」を設置し、被災された方への支援を行います。センターを設置したことのない社会福祉協議会においては、事前に運営上の流れを想定しておくことが必要です。

そこで、本会では、災害ボランティアセンター運営管理の役割を担う役職員が、災害発生時にリーダーシップをとって、円滑に災害ボランティアセンターの設置、運営を行うことができるよう、来る**12月9日(火)**に「**災害ボランティアセンター運営管理者研修会**」を開催します。当日は、日野ボランティア・ネットワーク代表 山下 弘彦 氏からの講演と九州北部豪雨災害で被災し、実際にセンター運営を行った県内2社協からの実践報告を予定しています。

【問い合わせ先】 地域福祉部 地域課 TEL 092-584-3377

# 今こそ種別を超えた大同団結を！



## 古都前厚生労働省大臣官房審議官が示す 社会福祉法人への期待と担うべき社会福祉事業の姿

福岡県社会福祉法人経営者協議会（以下、県経営協）では、社会福祉法人（以下、社福）を取り巻く環境や福祉ニーズが急速に変化している現状を踏まえ、今後の課題等について幅広い検討を行い、その方向性について確認することを目的として、古都前厚生労働省大臣官房審議官を講師にお招きし、各種別協議会正副会長等を対象とした勉強会を9月19日に実施しました。福岡県経営協ではこの勉強会を昨年度から実施していますが、このように種別を超えた勉強会は全国的にも珍しく、今回は県社協役員等を含め35名が参加しました。

古都氏からは『社会福祉法人への期待と担うべき社会福祉事業の姿』と題してご講義頂き、冒頭では、「今、社福のあり方そのものが社会全体から問われている。社福は国民との距離が遠かったのではないか。私の認識では社福は危機にあり、挽回する時間はあまりない。このような状況で、社福は何をすべきか。」と問題提起されました。

また、「国民全体が社福に厳しく注目する中、一部の社福しか地域の期待に応えられる事業展開をしていなかったことを真摯に反省した上で、全社福が地域貢献活動や情報公開等のガバナンスへの対応をしなければならぬ。」と指摘した上で、「残念ながら、一部報道で誤解が蔓延しているが、社福は絶対になくしてはならない。今こそ社福の存在意義を發揮し、社会的信頼と自信を取り戻し、プライドを持って事業に取り組んでほしい。社福という仕組みは、制度化されたものだけでなく、制度化されないもの、或いはそこから零れ落ちたものを救うためのセーフティネットである。それをもう一度思い起こし、社協や種別の枠を超えた全ての社福が大同団結し、協調して取り組むことが大事ではないか。社福があつてよかったねと言われるよう、まずは利用者と国民にその役割と取り組みをしっかりと理解してもらおうことが必要だ。」と、社福全体に対する熱いメッセージを頂きました。

なお、古都氏には、12月12日開催予定の『九州社会福祉法人経営セミナー』でもご講義いただく予定です。ぜひ奮ってご参加ください。

### 古都前審議官が指摘した社会福祉法人に対する叱咤激励

- ・今日的課題である制度の狭間の問題に、社福はどれだけ取り組んできたのか？引きこもり支援など、形の定まっていない分野の支援は、社福は取り組まないのか？
- ・生活支援は誰の得意分野なのか？これまでNPOがやっていたのは、社福がやらなかったからではないのか？
- ・不登校やニートの高齢化など、融通無碍に対応できるのは、場所も人もノウハウもある社福ではないのか？必ず狭間はできる。すべてを制度化することはできない。だからこそ、融通無碍に対応することが大事。
- ・社福が株式会社ではできない隙間を埋めていると言えるのか？社福は、まず行動することが大事！
- ・社福は危機意識が全然足りていない。現在の社福への数々の指摘は、種別の話ではなく、社福全体の話として認識していかねばならない。今こそ種別を超えた大同団結を！
- ・我々社福は「福祉」がやりたかったはず。今は、そのチャンスでもある。その夢を実現しましょう！



社会福祉法人を叱咤激励する熱いメッセージに、全員が聞き入っていました!!

【問い合わせ先】  
福岡県社会福祉協議会 施設課  
092・584・3377

## たくさんのご協力に感謝！～赤い羽根共同募金 街頭募金を実施～

福岡県共同募金会では、共同募金運動初日となる平成26年10月1日に、西鉄福岡(天神)駅周辺(福岡市中央区)で、**赤い羽根空の第一便伝達式と街頭募金を実施**し、今年の共同募金運動の開始を県民の皆さんにアピールしました。

赤い羽根空の第一便伝達式は、ANAグループ各社の客室乗務員の皆さんが、厚生労働大臣と中央共同募金会会長のメッセージ、赤い羽根を全国の知事・市町村長・都道府県共同募金会会長・市町村共同募金委会長に伝達するものです。

この伝達式と街頭募金には、ANAグループ客室乗務員 辻山 瑠奈 様、西鉄福岡管理駅長 宮原 渡 様、広報・啓発にご協力をいただいている福岡ソフトバンクホークス 球団マスコットのハリーホークにも赤い羽根応援者の代表として参加いただきました。

また、当日は、西鉄グループのご協力により、西鉄福岡(天神)駅(バスセンター・インフォメーション等を含む)をはじめ、西鉄電車主要各駅の駅員の皆さんと西鉄グランドホテル及びソラリア西鉄ホテルの接客スタッフの方々が赤い羽根を着用し、広報・啓発にご協力いただきました。

さらに、募金ボランティアとして福岡医療短期大学、福岡大村美容ファッション専門学校の皆さんにご協力いただきました。ありがとうございました。



## よりよいサービス水準への向上を目指して、第三者評価を活用しよう！

平成26年度に第三者評価を受審し、結果を公表している社会福祉施設・事業所を公表します。(10月時点)

### ◇社会的養護関係施設第三者評価 ※H24年度から義務化 計6件 (H25年度 13件)

【児童養護施設】 清心慈愛園、暁の鐘学園、誠慈学園 【乳児院】 甘木山乳児院

【母子生活支援施設】 母子生活支援施設ひまわり園、久留米市松柏園

社会的養護関係施設第三者評価の評価結果は、下記のHPで確認できます。

- ・全国社会福祉協議会(全国推進組織)HP <http://www.shakyo-hyouka.net/>
- ・福岡県福祉サービス第三者評価推進機構HP <http://www.fsw.or.jp/hyoka/top.html>

### ◇福祉サービス第三者評価 (H25年度 14件)

高齢者・障害者・児童など各福祉サービス(社会的養護関係施設を除く)の第三者評価受審は、義務ではなく自発的に取り組むことに意義があります。利用者の皆様に安心して質の高い福祉サービスを利用いただくために、自発的な受審をお願いいたします。

福岡県福祉サービス第三者評価の評価結果は、下記のHPで確認できます。

- ・福岡県福祉サービス第三者評価推進機構HP <http://www.fsw.or.jp/hyoka/top.html>

### ●受審の申込みについては、下記評価機関へお問い合わせください。

- ・公益社団法人福岡県社会福祉士会 TEL 092-483-2944
- ・特定非営利活動法人医療・福祉ネットワークせいわ TEL 0952-41-6522

### ●福岡県福祉サービス第三者評価推進機構事務局 問い合わせ先

- ・福岡県社会福祉協議会 県民サービス部 評価・相談課 TEL 092-584-3610

## 認知症への理解を地域で広げよう！～認知症について考えるつどいを開催～

福岡県介護実習・普及センター（福岡県社会福祉協議会 介護実習課）では、10月15日（水）に春日市のクローバープラザで、「認知症サポーター」の養成講座を兼ねた県民講座「認知症について考えるつどい」を開催しました。当日は、一般県民や介護職員、関係機関を含む157名が参加しました。

講演では、大牟田市認知症ケア（ライフサポート）研究会 大谷 るみ子 代表が、警察・行政を交えた徘徊模擬訓練を通してつくる「徘徊SOSネットワーク」や、小中学校への「絵本教室」などの取り組みについて紹介されました。

また、市全体で認知症の人や家族を支える地域づくりに取り組むことになった経緯や、取り組みが広がる要因など、実際の地域づくりのヒントとなる事例について紹介されました。

さらに、大谷さんの紹介で、徘徊模擬訓練で何度も行方不明高齢者役を演じた経験のある橋本 俊朗さんが登壇し、「地域の方は認知症高齢者の方に対して、もっと関心を持ってほしい」と訴えられました。

事例発表では、直方市認知症サポーターを広める会 野口 邦生 事務局長が、認知症サポーター養成講座やフォローアップ講演会の実施に加え、徘徊模擬訓練に協力・参加するなど地域に根差した活動について発表していただきました。

野口さんら6人が発起人となり、認知症に関わる多職種協議のネットワーク「のおがた認知症ケアシステム協議会」を発足し、認知症サポーター等を活用した筑豊初の「認知症カフェ」を誕生させた経緯などを話されました。

また、同会の地域づくりの秘訣や、認知症サポーターの組織化につながる仕掛けづくりについて発表され、会場は熱心に聞き入りました。

最後に、福岡県社協から、今後、市町村では認知症に関する体制づくりを進めることが喫緊の課題となっていることを説明した上で、「本日、認知症サポーターになられた皆様も、それぞれの市町村の認知症の方を支える支援体制にご協力ください」と参加者に呼びかけました。



大牟田市認知症ケア  
（ライフサポート）研究会  
代表 大谷 るみ子 氏

【問い合わせ先】 福岡県介護実習・普及センター（県民サービス部 介護実習課） TEL 092-584-3351

## 福祉のしごと出張相談を県内14か所のハローワーク等で実施中！

相談員が福祉・介護に関する資格、仕事について相談を承ります。資格を取りたい方、福祉の仕事に就きたい方、転職を考えている方、お気軽にご相談ください。

地区	実施場所	相談日
北九州	ハローワーク小倉	第1・3木曜
	ハローワーク八幡 ※	第4水曜
筑豊	ハローワーク飯塚	第2金曜
	ハローワーク直方	第3火曜
	ハローワーク田川	第4木曜
筑後	ハローワーク大牟田	第3金曜
	ハローワーク久留米 大川支所 ※	第4金曜
	ハローワーク八女	第2火曜
	ハローワーク朝倉 ※	第2金曜
	若者しごとサポートセンター（筑後ランチ）	第3土曜
京築	ハローワーク行橋	第2火曜
福岡	ハローワーク福岡東	第1・2・3水曜
	ハローワーク福岡西	第2木曜
	若者しごとサポートセンター 福岡センター	第4火曜

◆相談は無料、予約不要ですが、相談日が事情により変更になる場合があります。

※印の会場では、**福祉・介護の仕事入門セミナー**を時間で同時開催中！！

**参加無料・要予約**

■ハローワーク朝倉・ハローワーク久留米大川支所（10時～11時）

■ハローワーク八幡（14時～15時）

■クローバープラザ（毎月 第1金曜日 13時30分～14時30分）

【問い合わせ先】  
福岡県福祉人材センター  
（人材・情報課）  
TEL 092-584-3310

平成26年度

http://www.fukushihoken.co.jp

ふくしの保険

検索

全国200万人加入!!

# ボランティア活動保険

日本国内でのボランティア活動中のケガや賠償責任を補償



## 対象となるボランティア活動

- ◆グループの会則に則り企画、立案された活動であること  
(グループが社会福祉協議会に登録されていることが必要です。)
  - ◆社会福祉協議会に届け出た活動であること
  - ◆社会福祉協議会に委嘱された活動であること
- ※活動のための学習会または会議などを含みます。  
※自宅などとボランティア活動を行う場所との通常の経路による往復途上を含みます。

## 保険金をお支払いする主な例

- 清掃ボランティア活動中、転んでケガをした。(ケガの補償)
- 活動に向かう途中、交通事故にあった。(ケガの補償)
- 活動中、食べた弁当でボランティア自身が食中毒になった。(ケガの補償)
- 家事援助ボランティア活動で清掃中、誤って花瓶を落としてこわした。(賠償責任の補償)
- 自転車ボランティア活動に向かう途中、誤って他人にケガをさせた。(賠償責任の補償)

## 補償金額(保険金額)・保険料

		Aプラン	Bプラン	
ケガの補償	死亡保険金	1,200万円	1,800万円	
	後遺障害保険金	1,200万円 (限度額)	1,800万円 (限度額)	
	入院保険金日額	6,500円	10,000円	
	手術 保険金	入院中の手術	65,000円	100,000円
		外来の手術	32,500円	50,000円
	通院保険金日額	4,000円	6,000円	
賠償責任の補償	賠償責任保険金	5億円 (限度額)	5億円 (限度額)	
年間保険料	基本タイプ	300円	450円	
	天災タイプ*	460円	690円	

\*天災タイプでは、天災(地震・噴火・津波)に起因する被保険者自身のケガを補償しますが、賠償責任の補償については、天災に起因する場合は対象になりません。

## ボランティア行事用保険

地域福祉活動やボランティア活動の一環として行われる各種行事におけるケガや賠償責任を補償!

- 行事参加者(主催者(個人)を含みます。)全員のケガを補償(往復途上も含みます。)
- 行事主催者の損害賠償責任も補償

## 送迎サービス補償

送迎・移送サービス中の自動車事故などによるケガを補償!

- 送迎・移送サービス利用者を特定したAプラン
- 送迎・移送サービスのための自動車を特定したBプラン

## 福祉サービス総合補償

ヘルパー・ケアマネジャーなどの活動中のケガや賠償責任を補償!

- 在宅福祉サービス
- 障害福祉サービス
- 児童福祉サービス
- 障害者地域生活支援事業 など
- 地域福祉サービス

● お申込み、詳しい内容のお問合せは、あなたの地域の社会福祉協議会へ ●

団体契約者 **社会福祉法人 全国社会福祉協議会**

(引受幹事保険会社) 日本興亜損害保険株式会社  
TEL:03(3593)6245

取扱代理店 **株式会社 福祉保険サービス**

〒100-0013 東京都千代田区霞が関3丁目3番2号 新霞が関ビル17F  
TEL:03(3581)4667 FAX:03(3581)4763  
受付時間:平日の9:30~17:30(12/29~1/3を除きます。)

この保険は、全国社会福祉協議会が保険会社と一括して契約を行う団体契約です。

日本興亜損保と損保ジャパンは、関係当局の認可等を前提として、平成26年9月1日に合併し、「損害保険ジャパン日本興亜株式会社」になります。

(NK13-80727 平成26年2月12日作成)